

分 担 研 究 概 要

国立武蔵療養所神経センター

有 馬 正 高

長期療育を必要とする心身障害児に対して、医療従事者と、その小児を取りまく関連の機関、職種の人々との間でお互いにどのように協力すべきかを主題にして検討が行われてきた。現実には測した協力体制を組むためには必要とする情報が随時交換できることが望ましい。本研究グループは医療機関が果たすべき役割と、家庭や医療機関に医療例が要望することを明らかにした上でお互いの協力のシステム作りを目的としてきた。

本研究の最終年にあたり、各論は各協力者の報告にゆずり、総括的にまとめておく。

医療機関から親や関連機関に要望されることは、

1) 日常生活における保健、医療に関する情報の提供

2) 発作、行動異常などに対する投薬等の有効無効の判定に関連する情報

3) 無知や誤った判断で健康や治療上の支障を生じないこと。

などである。そのためには、医療側から要望すべきことを明示しておくことが必要と思われる。投与薬剤の有効性に関する医療機関、親、教育現場の評価の異同に関する成績や、てんかんに対する教育、保育の現場にある人達の認識の程度などについてのアンケート成績などは、おそらく医療担当者にとってはかなり重大な結果であり、医療側から生活現場にいる人達に積極的に情報と要望を提供する必要があることを示している。

医療機関で医師、心理指導員などが詳細な発達段階の分析評価を行い、それを基礎に療育訓練プログラムを樹てることは望ましい姿

である。ただし、医療機関で全ての発達遅滞乳幼児に必要な時間指導訓練を実施することは現状では不可能であり、日常指導の大きな部分は毎日生活する家庭および通園施設や保育所にゆだねることが現実的である。この場合、その子供について得られた評価やそのおくれを伸ばせる確たる方法があればその情報もそれらの生活の担当者に惜しみなく提供すべきであろう。

近年、学校教育の担当者（校医も含む）からはその障害児の主治医に対し日常生活上の注意に関しての照会がかなり普及してきた。これに対し、医療機関が応えることは必要な方向と考える。一歩進んで、主治医たる医療機関に対し、保育所、通園施設、学校などが日常の健康に関する情報を定期的に連絡することも定着する必要があると考える。現在、殆どの場合、父兄を介して子供に関する情報の交流が行われるが正確な情報が伝わらず、時には生命の危険さえともなう好ましくない状況も生じうる。これは施設収容児の場合などにも経験されるので、現行の制度慣行を改善することが必要である。特に、精神薄弱と総称されるグループは基礎疾患が多様であり、合併症も中枢神経疾患だけではなく、肝、腎、感覚器、その他に及び予測困難なものが往々にしてあって、継続的な医療の協力が不可欠なものであることを強調してよい。乳児から学童、成人にいたる一貫した健康管理のシステムを作るためには、その子供の健康上の記録が整備されていると同時に、責任のある立場にたつ者がその子供のために必要な時に随時その情報を役立てうるようになっておくこ

とが望ましい。

本研究においては、上記の問題に関して、守秘義務や情報のコード化の問題については検討にいたらなかった。制度として協力体制を組む場合、担当者相互のコンセンサスと信頼関係を確立しやすい方法が望まれる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



長期療育を必要とする心身障害児に対して医療従事者と、その小児を取りまく関連の機関、職種の人々との間でお互いにどのように協力すべきかを主題にして検討が行われてきた。現実に測した協力体制を組むためには必要とする情報が随時交換できることが望ましい。本研究グループは医療機関が果たすべき役割りと、家庭や医療機関に医療例が要望することを明らかにした上でお互いの協力のシステム作りを目的としてきた。

本研究の最終年にあたり、各論は各協力者の報告にゆずり、総括的にまとめておく。

医療機関から親や関連機関に要望されることは、

- 1)日常生活における保健,医療に関する情報の提供
- 2)発作,行動異常などに対する投薬等の有効無効の判定に関連する情報
- 3)無知や誤った判断で健康や治療上の支障を生じないこと。

などである。そのためには、医療側から要望すべきことを明示しておくことが必要と思われる。投与薬剤の有効性に関する医療機関,親,教育現場の評価の異同に関する成績や、てんかんに対する教育,保育の現場にある人達の認識の程度などについてのアンケート成績などは、おそらく医療担当者にとってはかなり重大な結果であり、医療側から生活現場にいる人達に積極的に情報と要望を提供する必要があることを示している。